

静岡県におけるバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)発生状況

1. 概要

2019年より県内でバンコマイシン耐性腸球菌（Vancomycin Resistant Enterococci = VRE）が急増しています。2020年に入り東部の複数の病院から発生届が出ており、県内の幅広い地域で伝播していると考えられます。VREの届出基準は以下の囲みに示します。

通常9割は無症候性のため、今回の報告例よりも多くの保菌者が県内にいると想定されます。

医師は、症状や所見からバンコマイシン耐性腸球菌感染症が疑われ、かつ、次の表の左欄に掲げる検査方法により、バンコマイシン耐性腸球菌感染症患者と診断した場合には、法第12条第1項の規定による届出を7日以内に行わなければならない。

この場合において、検査材料は、同欄に掲げる検査方法の区分ごとに、それぞれ同表の右欄に定めるもののいずれかを用いること。

検査方法	検査材料
分離・同定による腸球菌の検出かつ分離菌に対するバンコマイシンのMIC値が16 μ g/ml以上	血液、腹水、胸水、髄液、その他の通常無菌的であるべき検体
分離・同定による腸球菌の検出かつ、分離菌に対するバンコマイシンのMIC値が16 μ g/ml以上、かつ分離菌が感染症の起原菌と判定された場合	喀痰、膿、尿、その他の通常無菌的ではない検体

2. バンコマイシン耐性腸球菌とは

人の腸には腸球菌という常在菌が存在しており、通常は病気の原因になることはほとんどありません。本来効果があるはずのバンコマイシンという薬剤が効かなくなった腸球菌をVRE(バンコマイシン耐性腸球菌)と言います。VREが見つかった方の90%以上は無症状病原体保有者であり、発症することは稀です。起こしやすい感染症は尿路感染症や胆管炎、血流感染症などがあります。

3. 全国および県内の発生状況

2019年は静岡市保健所管内、2020年は東部保健所管内からの届出報告が多い状況です。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年※
全国	66	61	83	80	80	93
県合計	0	1	0	0	6	17
賀茂保健所						
熱海保健所						1
東部保健所					1	15
御殿場保健所						
富士保健所						
静岡市保健所		1			5	1
中部保健所						
西部保健所						
浜松市保健所						

※2020年第37週(9月7日～9月13日)までの届出を集計

2020年第37週までに県内に届出のあったバンコマイシン耐性腸球菌感染症

No	管轄保健所	年齢	診断日	発病日	推定感染日	診断方法		診断検体
						分離・同定による腸球菌の検出かつ分離菌に対するバンコマイシンのMIC値が16 μ g/ml以上	分離・同定による腸球菌の検出かつ、分離菌に対するバンコマイシンのMIC値が16 μ g/ml以上、かつ分離菌が感染症の起因菌と判定さ	
1	静岡市	74	2020.1.20	2020.1.15	2020.1.15		○	尿
2	熱海	71	2020.3.14	2020.3.9	2020.3.9		○	喀痰
3	東部	68	2020.2.17	2020.2.5	記載なし	○		胆汁
4	東部	75	2020.2.21	2020.2.17	2020.2.17	○		体内医療器具
5	東部	86	2020.2.22	2020.2.22	記載なし	○		体内医療器具
6	東部	69	2020.2.14	2020.2.14	2020.1.8	○		血液
7	東部	86	2020.2.28	2020.2.18	記載なし	○		体内医療器具
8	東部	71	2020.3.7	2020.3.3	2020.3.1		○	尿
9	東部	67	2020.3.5	2020.3.5	2020.2.25		○	膿
10	東部	87	2020.3.23	2020.3.17	2020.3.17	○		血液
11	東部	67	2020.4.27	2020.4.20	記載なし	○		血液
12	東部	80	2020.5.26	2020.5.26	2020.5.26	○		体内医療器具
13	東部	60	2020.6.1	記載なし	記載なし		○	子宮内容液
14	東部	96	2020.8.29	2020.8.16	記載なし	○		血液
15	東部	77	2020.8.30	2020.8.28	記載なし	○		胆汁
16	東部	77	2020.8.25	2020.8.23	2020.8.23		○	咽頭ぬぐい液
17	東部	88	2020.9.8	2020.9.2	記載なし	○		血液

4. VRE 分離株の遺伝子型別分析について

静岡県環境衛生科学研究所において、2019年に静岡市保健所管内で分離された菌株と東部保健所管内で分離された菌株の遺伝子型別分析（PFGE）を実施したところ、同一のPFGEパターンを示し、同一系統の菌株であることが確認されました。

なお、PFGEによる分析では、発生時期は特定できないため、静岡市保健所管内で分離された菌株が、東部保健所管内で派生したのか、その逆かはわかりません。

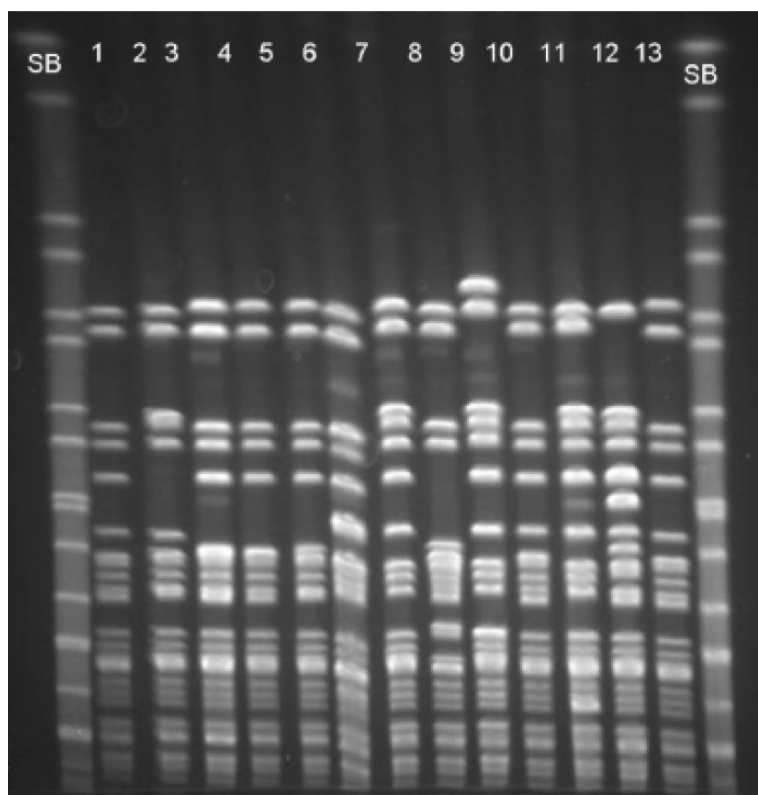


写真 菌株の PFGE パターン

SB:マーカー

Lane1～3：静岡市の院内感染由来株

Lane4～13：東部保健所管内にて分離された株

5. 今後県内で必要な対策

すべての施設で行っていただきたいのは手指衛生です。特に VRE の伝播は排泄介助や処理で起こります。手袋を外した後の手指衛生も忘れずをお願いします。

①医療機関

- ・ 手指衛生を含む標準予防策徹底をお願いします。患者さんのケア前後の手指衛生を常に行うことに加え、体液を扱う際は手袋を、くしゃみなどの分泌物が飛散する可能性があるときはマスクを、体液が体に付着する場合にはエプロンを着用し、一回限りの使用としましょう。
- ・ 抗菌薬使用は VRE を含む耐性菌増加の要因です。院内での抗菌薬適正使用推進が重要です。
- ・ VRE が検出された場合は、保菌であっても保健所への連絡をお願いします（届出は不要です）。可能であれば菌株保存をお願いします。
- ・ VRE 検出が複数発生した場合は院内感染の可能性がります。便培養で保菌者の拾い上げを検討ください。悩む場合は保健所にご相談ください。
- ・ VRE 検出患者が他施設に移動する際は、移動先へ情報提供をお願いします。
- ・ VRE 保菌のために患者さんに必要な治療やリハビリテーションが妨げられることのないよう、ご協力をお願いいたします。

②介護施設など

- ・ すべての患者に対して、手指衛生を徹底ください。特におむつをしている方や排泄ケアは伝播のリスクが高くなります。手袋の装着と手袋を外した後の手指衛生を徹底ください。